

## SAHANZ+UMPH joint Conference（開催地：オークランド）参加報告

2022年11月29日

文責：青木淳弘

11月25日（金）から11月27日（日）にわたってニュージーランド最大の都市オークランドで開催された SAHANZ(Society of Architectural Historians Australia and New Zealand)と Australian UHPH(Urban History Planning History) Group のジョイントフォーラムに参加してまいりました。私にとっては数年ぶりの国際学会への参加であり、または初めての南半球への旅でもありました。田村明記念・まちづくり研究会からは田口さんと私が参加。我々以外に日本人はおらず、参加者の多くがニュージーランドとオーストラリアの大学関係者でした。私が発表を行ったのは2日目のセッションであり、部会のテーマは「日本」でした。私は横浜市の都市デザイン室の概史とその設立の背景、またそのことを(Local Governmentとしての)自治体の企画調整という観点から捉え直すことが必要である旨の発表を田口さんと共同で行いました。この発表は、日本都市社会学会の学会誌に今年査読論文で掲載されたものが元になっていますが、学会の性質のためか聴衆の関心は都市計画の現場の話題にあるように思われました。

今回の国際学会への参加にあたって、私はふたつの目的を持っていました。ひとつは世界の人々に田村明（そして我々のNPO活動について）を知ってもらうこと、もうひとつは同世代の研究者たちと交流を深めることでした。これらは2017年のIPHS横浜大会の際に私が自らの役割を十分に発揮できなかったという想いに基づくものでもありました。今回これらの目標をどこまで達成できたのかについて、すぐにその結果は出ないものの、いくつかの嬉しかったこともありました。

まず田口さんの発表でも、私たちの共同発表でも、質疑応答で個人としての田村明や日本の都市デザイナーに関する質問が寄せられたことです。日本に関するケーススタディを海外の学会で発表する場合に、制度や社会的な背景が異なるために、どうしても制度や事例の相対化といったこと十分に押さえておかなければならない視点となります。しかし（もちろんそうした背景に関する理解や説明の必要性はありますが）個人の経験に着目しつつ、都市問題やガバナンスの問題を論じることによって、聴衆に関心を持ってもらったり、事例を相対化するための緒を共に考えたりする可能性に開かれたようにも思われるのです。このことは現在我々が進めている「個人に注目した」企画調整研究を発展させる上でも有意義な視点だと考えています。発表自体はとても緊張していたこともあり、十分に自分の研究について語る事ができた自信はありませんが、発表後にたくさん参加者と話しながらか、そうした議論を広げることができたことは私にとって大きな前進でした。またそうした会話の中から、同世代の研究者たちも等しく学会発表に対して（英語のネイティブスピーカーであっ

ても)緊張し、研究の進め方やアカデミアでの将来について似たような悩みを持っていると  
いうことを分かち合えたことをとても嬉しく思っています。

参加者たちとは連絡先を交換し、学会の間も機会を見つけては色々とお話をしました。セッションとセッションの間のティータイムや、2日目にオークランドの中心部で開かれたカンファレンスディナーへの参加は特に重要な交流の機会であったように思います。ディナーで横に座った考古学から都市計画を研究するようになった老夫婦。日本に娘夫婦が住んでいる先生。今度自分の学生と一緒に横浜を訪ねる予定といていた私の発表の司会を務めてくれたブリスベンの先生。研究上の話題にも触れながら、もしお互いの国を訪ねる機会があれば連絡し合おうと話していました。とりわけ私が交流を深めたのは、やはり同世代の研究者たちでした。最も印象深かったのは、古い建物のリノベーションに興味があり、日本のまちづくりとDIYについて研究している女性。田口さんが彼女に英訳版の『都市ヨコハマをつくる』を渡しましたが、田村明や横浜を含む日本のまちづくりにも深い関心を持ち、ぜひ帰国後も交流を続けようとお話し合っていました。また彼女の友人でシドニー大学の博士課程に在籍している研究者とも色々とお話をしたところ、ハウジングの社会学を研究しており、私と問題関心が近く住宅階級論やアーバンマネジャー論などについても議論が広げられたこともとても嬉しかったことです。お互いに来年メルボルンで開催される世界規模の社会学の国際学会 (ISA) に参加すべくアブストラクトを送って審査待ちであるという共通点もありました。ぜひ来年またメルボルンでお会いしましょう。どちらからともなくそんな言葉を掛け合っていました。

今回はオークランドにお住まいの田口さんのご家族にも大変お世話になりました。またこのような国際学会の機会を与えてくださったNPOの皆様にも心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。反省点もありますし、国際的な学会誌への投稿やその基礎となる研究の推進といった目標もあります。また今回の発表の原稿も来年のはじめまでには仕上げなくてはなりません。今回得られた刺激と課題を胸に、田村明と彼に関係する人たちのこと、都市経営やまちづくりに関する知見、そしてNPOの活動を国内外問わずさらに広げていけるように邁進してまいります。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。